

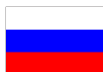
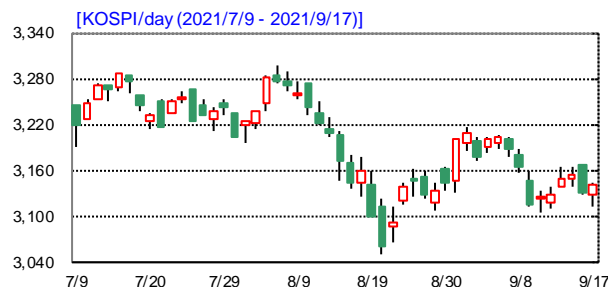


【韓国】 総合指数は週間で0.5%高と反発、今週はFOMCに注視

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%高と反発した。海外勢の力強い買いが相場を支え、先週末の10日から15日まで4営業日続伸。韓国銀行（中央銀行）が14日発表した7月の金融統計は強い内容となり、国内景気の先行きに対する懸念が和らいだ。北朝鮮が長距離巡航ミサイルの発射実験を実施したと伝わったが、市場の反応は限定的だった。16日は5営業日ぶりに反落。半導体大手サムスン電子とSKハイニックスが売られ、相場の重荷となった。17日は前日の米ハイテク株高が好感されて反発した。今週は中秋節のため20-22日が休場で、2日間の取引となる。神経質な相場展開か。米連邦準備理事会（FRB）が量的緩和縮小に踏み切る時期の手掛かりを求め、20-21日開催の米FOMCに対する投資家の注目度が高まりそうだ。

▼指数チャート

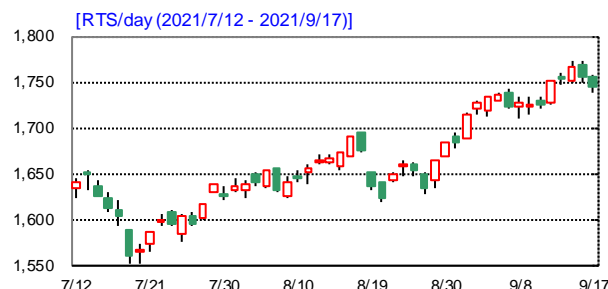


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.1%高と反発、今週は原油や海外株が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.1%高と反発。原油・天然ガス相場の上昇を受けたエネルギー株が指数を押し上げた。RTS 指数は週明け13日から15日まで3日続伸し、2011年8月以来となる1773.04ドルまで上昇。ルーブル建てのMOEX 指数は連日で史上最高値を更新した。週後半は海外株安や貴金属・メタル相場の下落が嫌気されて続落したが、月初来で3.6%高、年初来では25.8%高となった。ブレント原油は3.3%高と続伸し、ルーブルは対米ドルで0.4%上昇した。個別では、エネルギーのルクオイルが週間で4.8%高、タトネフチが4.6%高、ロスネフチが4.4%高。一方、資源のノリリスク・ニッケルが5.1%安、産金のポリュスが4.7%安、鉄鋼のノボリペツクが4.4%安と下落した。今週は原油や海外株をにらんだ展開か。

▼指数チャート

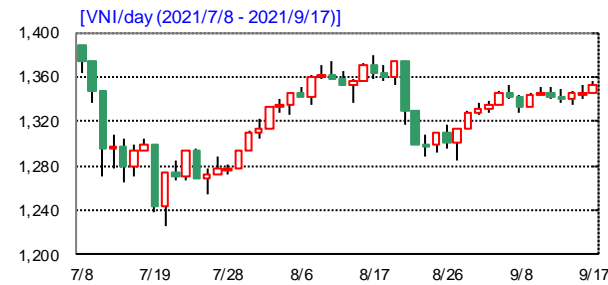


【ベトナム】 ベトナム指数は0.5%高と3週続伸、今週はセンチメント改善で堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.5%高と3週続伸。海外勢の売り越しが続いたものの、主力優良株が買われ、指数を押し上げた。週前半の13-14日は利益確定売りに押されて続落したが、15日は海外勢の売り越しが続く中、食品加工のマサン・グループなどの主力株が大幅高となり、VN 指数は前日比0.5%高と3日ぶりに反発。16日はほぼ横ばいで推移したが、17日は幅広い銘柄が上昇し、指数は0.5%高で終了。終値では約1カ月ぶりの高値となった。個別ではマサン・グループが12.3%高と急伸し、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が6.3%高、エネルギーのペトロベトナム・ガスが3.7%高と大幅高。一方、ベトナム・バンクが2.0%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが1.9%安となった。今週もリスクセンチメント改善で堅調か。

▼指数チャート



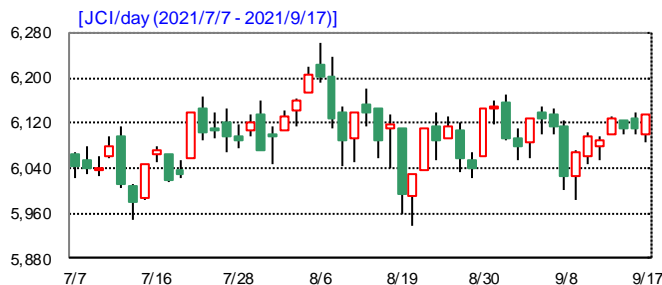


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6% 高、今週は中央銀行の金融政策決定会合が焦点

ジャカルタ総合指数は週間で 0.6% 高と反発。狭いレンジでの値動きでもみ合った。週初の 13 日は買い材料に乏しく 3 営業日ぶりに反落したが、14 日は新型コロナ対策を目的とする制限措置がバリ島で緩和されたことが買い材料となり、終値で 5 日ぶりに 6100 ポイント台を回復。15 日は 8 月の輸出入額が市場予想から上振れしたものの、中国の鉱工業生産と小売売上高の伸びが減速した影響で反落した。週後半は 16 日に小幅続落した後、17 日は反動で買い戻されて取引を終えている。今週は 21 日開催の中央銀行による定例の金融政策決定会合が焦点。外部要因では 21-22 日開催の米 FOMC が意識されそうだ。

▼指数チャート

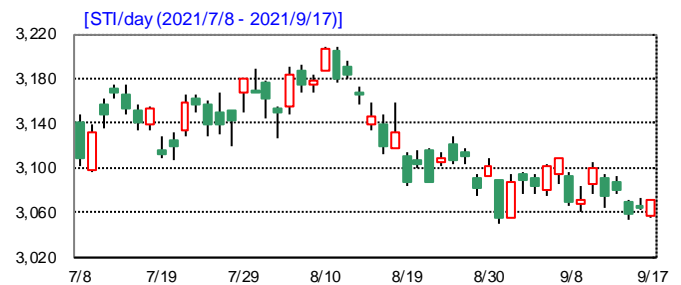


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.9% 安、政府がユニコーン企業の国内上場支援を発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.9% 安と 3 週ぶりに反落。外部要因が指数下落を主導した。週初の 13 日は、新型コロナの感染者数増加が嫌気され、3 営業日ぶりに反落。14 日は小幅反発したが、15 日は米中の経済指標が市場予想から下振れし、世界経済の先行きに対する不安感が広がった影響で売り優勢の展開となった。ただ、16 日に買い戻されると、17 日は 8 月の非石油地場輸出が前年同月比 2.7% 増と市場予想を下回ったものの、政府がユニコーン企業を対象に国内での上場を支援する方針を発表したことが好感され、続伸して引けている。今週は 23 日に 8 月の CPI、24 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

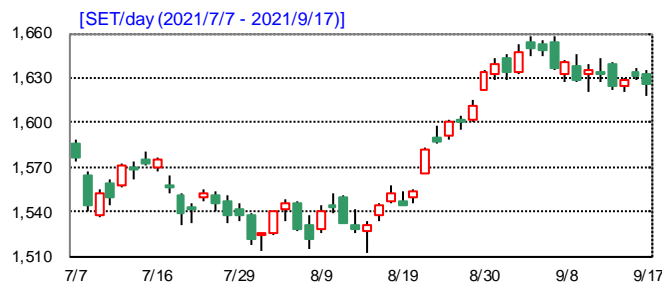


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.6% 安、今週は 8 月の貿易統計に期待

SET 指数は週間で 0.6% 安と続落。不安定な値動きが続いた。週初の 13 日に反落すると、14 日は米国の 8 月の CPI 発表を目前に控え、インフレ加速に対する警戒感が広がり続落。15 日は米 CPI が市場予想を下回り、緩和的な金融政策が続くとの見方が買い材料視されて 3 日ぶりに反発した。16 日は前日の NY ダウが反発した流れを引き継ぎ続伸したが、17 日は 10 月 1 日から再開する予定だったバンコクなどでの外国人旅行者の受け入れが 2 週間延期される見通しとなったことが嫌気され、反落して引けている。今週は 23 日に 8 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。24 日はマヒドンの日のため休場となる。

▼指数チャート

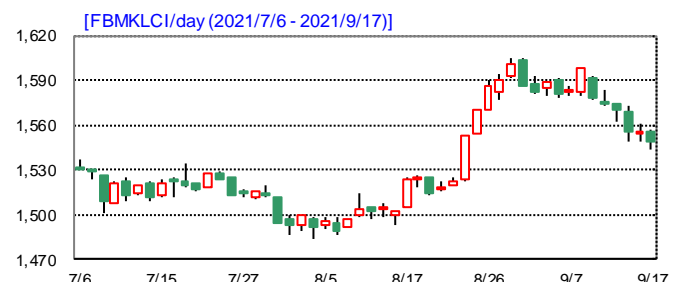


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7% 安、買い材料に乏しく 6 営業日続落

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.7% 安と 3 週続落。国内の経済指標発表が少ない中、週末まで 6 営業日続落と軟調な値動きだった。週初の 13 日は、トップ・グローブなどの大型株が指数下落を主導。14 日は政府が景気対策として、債務残高の上限を対 GDP 比で現行の 60% から 65% に引き上げる方針を示したほか、企業に対する超過利潤税の課税強化に対する警戒感が広がったことが嫌気された。15 日は前日からほぼ横ばいで推移した後、祝日を挟んだ 17 日はトップ・グローブとプランテーション事業などを手掛ける IOI コープの下落が指数を押し下げた。今週は 24 日に 8 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。